

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200212		
法人名	社会福祉法人 京都悠仁福祉会		
事業所名	グループホームヴィラ鳳凰(あおい)		
所在地	京都府宇治市宇治里尻36番35		
自己評価作成日	令和6年1月17日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691200212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に特養、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所、認知症対応型デイサービス、クリニック、訪問看護、訪問介護、認知症カフェを併設しており、認知症の初期から看取りまで支援ができる体制を整えている。併設のクリニックと連携し、居宅療養管理指導を月2回実施しており、訪問診療以外でも連携を行うことで、安心したサービス提供に努めている。
今年度より新たな取り組みとして、「余暇活動の充実」を方針展開表の指標に定め取り組んでいる。
また、新たに地域代表として民生児童委員1名が地域運営推進会議に参加し、要望や助言等をいただいている。事業所内での余暇活動では、制作活動や行事を通じて季節を感じてもらえる行事の実施に力を入れるとともに、外出行事も多く企画し、充実した生活が送れるように支援している。
ホームページのブログをこまめに更新する事で、ご家族にも安心してもらえるよう取り組んでいる。

JR宇治駅に近い京都認知症総合センター内の北側の棟の3、5階が当グループホームです。1階の認知症総合センタークリニック、2階の認知症カフェ(常設・地域の方も利用)との連携や交流などを通して、地域を身近に感じながらの認知症ケアが実践されています。事業所内での日々の様子は週2回更新されるブログや運営推進会議などにも紹介され、家族に好評です。多くの行事は入居者が考え、職員はそのサポートに徹します。現在は面会・外出・外泊も比較的自由で、回転ずしなどの外食にも出かけています。訪問すると、数名の入居者が厨房で甲斐甲斐しく立ち働く姿を目にします。職員は、「自分の親を入れたいと思えるホーム」であり続けるよう、入居しても本人が何も失わない支援を心掛けておられます。一方、法人の手厚い教育・サポート体制により、常勤職員の介護福祉士資格保有率は外国人職員を含めて9割を占め、ともに良質なケアの提供に励んでいます。また、1階の認知症クリニックの看護師の兼務や隣接の総合病院との連携により医療面のサポートも充実し、こうした利点の数々が事業所が本人や家族に支持される所以です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で理念の共有を図っている。	法人理念やスローガンは月曜日の朝礼に参加した各部署代表が唱和をしている。ユニットでは法人理念やスローガンをもとに、「余暇活動の充実」を年度目標にあげ、毎月のユニット会議で実践状況を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は、新型コロナの影響もあり、開催がない。 併設の認知症カフェの活動や施設で開催している生花教室に参加している入居者があり、地域と交流している。	町内会に入り、新型コロナ流行以前は地域の子供たちが敬老会に来たり、夏祭りなどでの交流があったが、現在はなし。大正琴のボランティアと入居者のハーモニカのコラボレーションがある。地域の方が利用する2階の認知症カフェで入居者と家族も喫茶をしている。警察や地域の女性会、他の関係機関も含め、「宇治市高齢者等SOSネットワーク」の会合を当事業所で持ち、職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームだけでなく、施設全体で認知症カフェの取り組みを実施し、地域住民にも参加してもらっている。また、地域の介護保険事業所や市民向けの研修を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回(うち2回は認知症対応型通所介護と合同)開催している。	会議には、行政、地域包括支援センター、里尻町内会員、民生委員、児童委員、入居者と家族数名の参加を得ている。事業所内や地域の問題について多くの資料をもとに話し合っている。議事録から、参加者の意見をまんべんなく聞き取り、運営の改善に繋げようとする事業所の姿勢が見える。議事録は会議参加者と全入居者家族に送付し、ホームページにもアップしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者は運営推進会議に出席しており、議事録を提出し、報告している。 また、介護相談員の訪問が月1回あり、入居者様と交流している。	運営推進会議に行政の参加があり、運営推進会議議事録を後日届けている。困りごとなどの相談、各種問い合わせや事故報告をしている。介護サービス相談員の来所に関する話し合いをおこなっている。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3ヶ月に1回開催しており、身体拘束の事例はない。	指針を定め、法人の委員会に参加した代表者(年度ごとの輪番制)が、ユニット会議で報告をしている。前回の外部評価の指摘を生かし、委員会報告をもとにユニット内でも話し合いの機会を持っている。現在拘束事例はない。接遇チェックリストの中の身体拘束に関連するチェック内容などを見て、必要な職員には個別面談をおこなっている。入居時に帰宅願望が強かった方も、認知症クリニックや他の関係機関との連携により症状が落ち着き、現在はホームでの生活を楽しまれている。玄関は施錠しているが、希望があれば職員と買い物や外出などをして閉塞感の解消を図っている。	30項目の接遇チェックリストでは、身だしなみなどの接遇面と、身体拘束関連のものと、プライバシー関連のものが混在しています。接遇・身体拘束・尊厳(プライバシー)に分けて、職員が意識的に自己を振り返る機会にされると、さらに一つ一つの項目の意味が生きてくるのではないのでしょうか。ご一考ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。事例があればグループホーム会議で検討することとしており、虐待の事例はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について説明し、契約を締結している。また、記載内容に変更等あれば、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や請求書にご意見はがきを同封し、意見・要望等が言いやすい環境を整えている。また、満足度アンケートを年1回実施し、その意見を改善に繋げている。	運営推進会議、ご意見はがき、利用者アンケート、家族アンケート、家族会など多くの情報収集手段を持っている。出された意見には事業所として迅速に対応し、運営推進会議などに報告している。毎月の茶話会で入居者の声を聞き、行事やレクリエーションや生活に生かし、意思表示の乏しい方は家族から聞き取り、意向を把握している。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要な会議に出席し、意見を述べ指示を出している。 また、「京都府福祉職場 組織活性化プログラム」を活用し、職員の職場に対する思いが見える化しており、所属長ヒアリングや所属長による年2回の面談を実施している。	会議、個人面談などで支援に関することや各種意見を吸い上げ、職員からの改善提案書も業務に生かしている。職員のワークライフバランスを考慮して働きやすいように便宜を図っている。「京都府福祉職場組織活性化プログラム」の集計結果によると、職場環境は昨年より向上している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課制度を導入している。 また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。新たに採用した職員は、プリセプターシップ制度を実施し、早期に職場に慣れるよう、個々のレベルに合わせ指導している。また、認知症介護実践者研修等の外部研修に参加を促し、資格取得できるようサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催するグループホーム連絡会に参加し、他事業所の職員と交流や意見交換しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により開催なし。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の不安や思い、意向を取り入れたケアプラン作成や、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族等の不安や思い、意向を聞き、概ね3ヶ月に1回モニタリングを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に入居前の情報や本人の様子、状態等を把握し、本人が環境に慣れ不安なく生活ができるサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や思いを聞き、職員本位で決定せず、本人が選択できる言葉掛けや環境づくりに努めている。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	モニタリングやサービス担当者会議、普段の会話から馴染みの場所や好きだった食べ物などを聞き取り、行事等を提案している。また、医療面においても、家族と共に支えあう関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出制限や面会制限を実施しているが、制限範囲内で実施している。	30分までの居室での面会、家族との外出・外泊・外食は自由である。携帯電話で家族や友人と話す方もいる。遠方の家族とのリモート面会や手紙、電話などの支援をしている。大正琴のボランティアとハーモニカの得意な入居者との合奏に他の入居者も合唱で参加している。畑での花や野菜づくり、生け花、ラジオ体操、洗濯物畳みなどの趣味や習慣の継続を支援している。ブログの発信、機関紙や「情報提供票」の送付で本人の様子を家族等に知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から共用空間で過ごされる方が多く、同じテレビを観たり、歌を歌ったり、制作活動等をして過ごされてる。また、食事の調理、配膳、下膳、食器洗いなども協力して実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、特養に入所した方があり、関係職員に情報の共有を行っている。また、職員間で情報共有し、スムーズにサービス提供できるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやサービス担当者会議で希望や意向確認している。入浴時間や衣類選択等、本人の意見を尊重している。また、誕生日は献立のリクエストを聞き、楽しみの充実を図っている。	センター方式のアセスメントシートの詳細な情報や、ケアカルテの記録などから本人の意向を確認している。利用者アンケートや聞き取りで好きな食べ物やしたい事を聞き、寿司を作ったり図書館に出かけるなどしている。誕生日のメニューも本人が決め、表現の苦手な方には、しぐさや表情、家族への聞き取り、写真やチラシの提示などにより選んでもらうか、推測するかしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基に環境整備に努めている。就寝時間など、本人の生活リズムに合わせた声掛けや、食事の嗜好や習慣等も入居前に聞き取りしている。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを実施し、本人の能力を把握し、職員で情報共有のうえ、家事等を依頼している。 また、必要に応じて職員間での共通、カンファレンスを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に一回モニタリングを実施し、本人、家族の意見をもとに、可能な限り意向に添ったケアや支援に努めている。	介護計画は最長で1年の長期目標を設定し、3か月ごとのモニタリングで進捗状況を確認している。計画には自立支援の観点や本人の望む生活スタイルが示されている。急激な状態変化や、入退院による変化、認定期間満了前にはサービス担当者会議を開催して介護計画を変更している。各専門職がケアカルテにて情報を共有し、チームケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を残し、必要に応じて申し送りしており、カンファレンスを開催している。グループホーム会議やユニット会議でも共有、実践に繋げており、モニタリング時に提案し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全に生活できるよう靴や歩行補助具等の介護用品を提案し、福祉用具業者とその方に合った用具を提供している。 必要に応じて、併設の特養やクリニックの機能訓練指導員に助言をもらい、安全なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の開催はなかったが、施設内行事や外出行事を多く企画し、本人の希望に添った支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内での訪問診療だけでなく、かかりつけ医の継続、本人の希望に沿った支援に努めている。 また、併設のクリニックと医療連携を行い、日々の健康管理も行っている。	1階の認知症クリニックの医師の月2回の訪問診療や、兼務の看護師の頻繁な来所がある。他科受診に家族が付き添う時は情報を提供し、受診後報告を受けている。月1回隣接の病院の歯科衛生士が口腔ケア指導に来所している。また、必要に応じて1階クリニックの言語聴覚士、特別養護老人ホームの理学療法士が嚥下や機能訓練の指導に来所している。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のクリニックと連携し、健康状態の把握や相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、家人や医療機関と連携しており、入院中も医療機関と連携し状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行わない方針である。 法人全体の事業所と連携し、協力できるよう取り組んでおり、入居時に方針を伝え安心して生活できるよう努めている。	看取りはおこなわない方針を入居時に家族等に説明している。看取り期には本人の状態とそれぞれの事業所の特性を考慮し、系列の事業所や関連医療機関、その他の事業所と連携して、複数の選択肢を提示して家族等に決めてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。 また、緊急時の対応について学ぶ機会として、普通救命講習を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対応訓練(年1回)及び避難訓練(年2回)を開催し、訓練終了後は防災教育を実施している。	認知症総合センター内の各事業所合同の防火、防災訓練があり、年1回は消防署の立ち合いがある。入居者や認知症カフェ利用中の地域の方とともに避難している。別に年1回風水害の訓練があり、上階に避難している。1級河川に近く、水害時は福祉避難所の機能を発揮できない懸念がある。自家発電装置、ポータブル発電機を備え、備蓄はレトルト食品、ミカン缶など3日分程度がある。南側の特別養護老人ホームにも備蓄はあり、多めのローリングストックをしている。地域の方にも訓練の呼びかけはしているが参加は得られていない。	

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。 また、本人の意思を尊重し、場所を変えて話したり、他者に聞こえない環境で話しかけるように努めている。	研修委員会が「個人情報・プライバシー」の研修を定期開催し、職員の意識を高めている。事業所のブログには本人や家族の許可を得た方のみが顔出しをしている。入居者個人の事は極力居室で話し、排泄確認は他の入居者に聞こえないように耳元で話している。浴室でも自立度の高い方は少し離れて見守り、同性介助の希望にも応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会を月1回開催し、本人の想いや希望を聞く機会を設けており、出た意見を行事等に反映するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位で決定することなく、本人がどのように過ごしたいか等を考慮し、必要に応じてカンファレンス等を開催している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができるよう関わりを持ち、家族にも協力依頼している。 また、定期的に理美容や毛染め等の希望がないか声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食献立を伝え、食べる楽しみを持ってもらえるように努めており、調理、配膳、下膳、食器洗いなど家事も一緒に行っている。また、誕生日は献立のリクエストを聞き、楽しみの充実を図っている。	業者の冷凍ものと常温のものを併用して調理し、汁物は業者から具材とスープが届く。朝は希望により週4回パン食にしている。食事レクリエーションやおやつ作りの希望があれば、適宜メニューを変更している。器用に包丁を使い、洗い物、配膳、盛り付けなどをする方もあり、平均介護度約1.5の強みを生かした楽しい食事作りができています。菜園の野菜も食卓に並んでいる。誕生日には炊飯器でデコレーションケーキを作って祝い、節分には卵の恵方巻づくり、他に回転ずしの外食なども楽しみ、お茶以外にも、自前のコーヒー、紅茶、ココアなどでティータイムをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分量の管理、また、自室にいつでも飲めるお茶を毎日配膳する等、本人にあった支援を行っている。必要に応じて、併設しているクリニックのSTへ嚙下等について相談できる体制を整えている。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要時には介助している。 また、口腔衛生管理指導を行い、ケアの指導も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけや介助を行ない、記録に残し排泄状態を把握している。排泄の間隔が空いている時は、都度トイレの声かけを行い、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。 また、便秘がある方は下剤を調整し、併設しているクリニックと連携している。	自立で布パンツの方もいるが、声掛けがあれば汚染を防げる方や、リハビリパンツにパットをセットしておけば自分で交換ができる方などがあり、その方に合わせて支援をしている。夜間もトイレに起きて来られている。下剤の使用を減らし、水分補給や歩行、余暇活動により便通をよくする様に意識して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整だけでなく、なかなか水分が進まない方には好みの飲み物の確認や、こまめに少量ずつお茶を提供する等、水分量が低下しないよう努めている。 毎朝の体操や散歩等、運動の機会が持てるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を実施し、入浴の声かけにより、意向確認している。 また、入浴時間や回数の意向を確認し、夏場の入浴回数の増回や夕方の入浴等、可能な限り対応するように努めている。	週2回の入浴以外にも希望者には増回している。湯温表をつけ、個々の適温を把握している。当日の行事や予定との関係にもよるが、夕方の入浴希望にも応じている。格子型の手すりで浴槽出入りの安定が図られている。一人ずつゆったりと浴槽につき、時には柚子・菖蒲湯などで変化を楽しんでいる。入浴後は保湿剤で皮膚の乾燥を防いでいる。入浴拒否の方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休憩ができるよう声かけを実施し、生活リズムにも注意している。 空調管理や寝具も季節にあわせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や受診時にかかりつけ医に相談している。処方の際には、薬の説明書を確認し理解に努めている。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	制作活動、歌等の楽しみが持てるよう工夫している。併設の認知症カフェの活動や施設で開催している生花教室に参加している入居者もおられる。 毎日のゴミ捨てや物品補充等もそれぞれ入居者様に役割分担を行い、様々な役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き、外食や季節を感じてもらえる行事を企画するよう努めている。 家族との外出や外泊も制限範囲内で対応し、外出の機会が持てるよう支援している。	ベランダや事業所周辺の散歩を日常的におこなっている。インフルエンザやコロナクラスターが出なかったこともあり、コンビニエンスストアや馴染みの商店街での買い物、本の好きな方は本屋に出向き、宇治上神社への初詣、回転ずしの外食、家族との外出、外食、通院など多くの外出機会をもっている。 景勝地に近いが、穴場を見つけて花見・紅葉ドライブなども楽しんでいる。来年度は状況を見て小旅行も計画したい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理を行い、ご自身の物は一緒に外出して買物に行くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話や手紙のやり取りをされており、携帯電話を持参し、家族へメールや電話をしている方もある。 充電が切れないよう支援し、操作方法についても支援している。		

京都府 グループホームヴィラ鳳凰(あおい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的と一緒に掃除を実施し、空調管理など環境にも配慮している。 また、テレビの音量にも注意し、他者も生活しやすいよう配慮している。 定期的にテーブルの配置を変え、交流できる空間の工夫を行っている。	大きな掃き出し窓からの光と、柔らかい蛍光灯色のライトとで明るさを調節している。対面キッチン横の広いリビングには、2卓の台形のテーブル、1卓の四角いテーブル、落ち着いた色調のソファがあり、入居者は好きな場所で手作業や制作、レクリエーションなどを行っている。調理の好きな方はキッチンで職員と調理や洗い物などを行っている。ハーモニカの得意な入居者の演奏に合わせての歌唱も日課となっている。食事の時はテレビを消して小さな音量でクラシックやジブリメドレーのBGMを流している。壁には獅子舞、鬼などの季節の貼り絵、習字、手作りカレンダーなどが飾られている。大型の空気清浄機を配置し、掃除は入居者と一緒にこなしている。広いベランダでの外気浴や、気候の良い時には3階の菜園の野菜づくりなどを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一緒に作業したり、テレビを観たり、入居者同士の会話が生まれているよう声かけしている。 また、一人で過ごしたい方は、居室やリビングのソファで過ごしてもらうよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスやテレビ、写真などを持参してもらっている。	表札には名札や折り紙作品などを飾り、部屋の目印としている。室内にはエアコン、カーテン、ベッド、洗面台などが備わり、布団類はレンタルである。できる方は職員と一緒に自室の掃除やリネン交換をしている。チェスト、一人用のソファ、家族の写真、好きな小物やテレビなどを配置し、気の向いたときに自室でくつろがれている。事業所周辺には光を遮る建物がなく、大きな掃き出し窓からの光で各居室は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒にできることは声掛けを実施し、環境を整え、家具等の配置を工夫することで、本人が自立した生活が送れるように支援している。		